

生産情報

農業振興課主任 齊藤 大貴



リンゴの生育状況

当JA管内の生勢が早い地区では、4月2日に「ふじ」の発芽日を確認し、昨年よりも5日程早い発芽日となりました(湯口地区)。また、展葉日についても昨年より4日程早い4月10日となりました。尚、温暖な天候が続いたことで「ふじ」の開花も昨年よりも早く、各品種における開花日は別表の通りとなっております。

りんご作業

一回目の摘果作業は、早く、多

●地区別の開花日 (カッコ内は前年) 5/7現在

	ふじ	王林	つがる
湯口	4/29 (5/8)	4/26 (5/3)	4/30 (5/6)
紙漉沢	5/3 (5/10)	4/30 (5/7)	5/5 (5/11)
相馬	5/3 (5/10)	5/2 (5/8)	5/5 (5/10)
りんご研	4/28 (5/5)	4/24 (5/2)	4/27 (5/3)

くの数を摘果するよう心掛けてみましょう。果実の細胞分裂が終わる「落花25日頃」までに摘果を終えるのが理想的です。

▼摘果剤について

摘果作業が遅れそうな場合は、薬剤による摘果を行きましょう。摘果剤はミクロテナポン1,200倍を使用し果実に十分かかるように、展着剤を加用して10aあたりに350ℓ以上散布して下さい。

散布時期については、ふじ・王林・早生ふじ・トキが満開2週間頃(ふじは横径目通りの高さで7~10mmくらい)、紅玉・星の金貨では満開3週間頃(紅玉では中心果の横径16mmくらい)の1回目です。つがるやジョナゴールド、世界一などの早期落果しやすい品種にかかると落ちすぎる場合がありますので、かからないように注意しましょう。

▼ツル割れ防止対策における「ヒオモン水溶剤」の使用について
ヒオモン(水)は単用散布とし、

満開20~30日後に3,000倍で10aあたり350ℓを目安に散布しましょう(ふじ)。尚、高温・乾燥時や極端に樹勢の弱い品種への散布は避けて下さい。

○水稲

水田除草剤は、「ゼアス(ジャンボ剤)」を使用します。使用時期は、移植直後から使用可能で、代掻きから1週間以内を目安に散布して下さい。散布の際には、5~6cmの深水にし、その後7日間は水田に水を入れないようにしてください(薬剤の層を壊さないため)。やむを得ず水を入れる場合には、静かに水を入れてください。また、その後の水管理については、平均気温が高い場合は浅水(2~3cm)にして分けつを促進し、低温の場合には、深水(5~6cm)で管理し稲の低温障害を防ぎましょう。水が足りなくなった場合は夜間に水を入れ、かけ流しは絶対に避けてください。

◎STOP! 農作業事故

機械作業は焦らず無理をしない運転を心がけましょう。どんなに慣れた作業でも油断はせず、事故防止に努めて下さい。

●りんご病害虫防除暦 (第3回目~第6回目)

散布計画	散布量	散布時期	基準薬剤	希釈倍数	備考
3	350ℓ	落花直後	ミギワ20 (F) ジマンダイセン (水) アタプロンSC 果面保護剤	4,000倍 600倍 4,000倍	●リンゴハダニの発生が見られる場合は、バロック (F) を加用する。
5月中旬 コンフューザーRの設置 (100本/10a)					
4	350ℓ	落花10日後	デラン (F) エルサン (水) 果面保護剤	1,500倍 1,000倍	●コンフューザーRを5月下旬までに設置し、ハマキムシ類及びシンクイムシ類における次世代の密度低下に努める。 ●デラン (F) とユニックス (顆水) の混用は避ける。 ※デラン (F)、ユニックス (顆水)、殺虫剤における3種混用は、薬液の変色及び沈殿物の形成が認められているため。
5	420ℓ	落花20日後	ジマンダイセン (水) ダイアジノン (水) 果面保護剤	600倍 1,000倍	
6	500ℓ	開花直前	パスポート (顆水) モスピラン (顆水) ダニオーテ (F) 果面保護剤	1,000倍 4,000倍 2,000倍	●ナシマルカイガラムシの発生が多い園地では、コルト (顆水) 3,000倍を散布する。【アブラムシ同時防除可】 ●極早生種がある場合は殺菌剤をラビライト (水) に変更する。

果実販売動向

販売課 田村 慎平



平素からJA相馬村フルーツステーションをご利用いただき誠にありがとうございます。4月の果実販売動向をお伝えします。

イチゴについては各産地3番果から最後の4番果への切り替えが進む中、小玉傾向というところもあり入荷量はあまり増え切らないこととなりました。末端では先月から引き続き売り場は広くとられていたため市場では不足感のある取引となり、関東では堅調な値動きになりました。しかし気温の上昇が進んでいる関西や九州の市場では品質低下の懸念が強まり、入荷量が少ないにもかかわらず荷動き重視で弱含みの価格での販売となりました。

中・晩かん類については、例年3月いっぱいではほぼ販売終了となっていました。今年も市場での在庫の整理が進まず、販売が遅れることとなりました。輸入物も増えていく中で最後には厳しい販売となりましたが、ほぼ販売終

了となっております。

スイカについては4月第2週ごろから熊本県産の販売が開始されました。今年は大玉傾向であることに加え生育の進みが早く潤沢な入荷となりました。スタートは売価設定が高く、売り場はまだ広がっていないこともあり緩慢な荷動きとなりましたが、月の終わりには売り場も広がっていき、価格も一段階下げる動きが見られたため、荷動きは回復傾向となりました。

リンゴについては先月に引き続き業者関係を中心に小玉・下位等級品の出回りが多く、流通在庫を多く抱えていることから厳しい販売となりました。品質・食味面では目立った問題は見られていないものの、末端では冷蔵棚への移行が進み売り場は縮小傾向となっており、荷動きは鈍く、価格は下げ基調での販売となりました。

今後の見通しについては、イチゴにつきましてはGWまでは売り場は広く確保されますが、そ

の後は売り場は縮小傾向になって行き、気温の上昇とともに価格を下げての荷動き重視の販売になっていく見込みです。

スイカについては、熊本県産がピークを迎えて入荷量が増えていく中、気温上昇にもなって引き合いは強まる見込みです。ブロッコリー・カット売の売り場が多い状況ですが、それでも荷動きは活発になっていくものと思われます。

リンゴについては農協系統のサンふじは終盤を迎えますが、業者関係のサンふじは引き続き入荷がある見込みです。その為5月になってもサンふじの販売が続き、有袋ふじへの切り替えは例年より遅れる可能性が高いです。

NZ産のプリンス・ガラといった競合する輸入品種が増えてくることもあり、荷動きの鈍い状況が続く見通しです。当農協ではサンジョナ・王林の販売が終了し、残すはサンふじ・有袋ふじ・有袋ジョナ・シナノゴールドのみとなっております。今後市場動向に注視しながら、有利販売に努めてまいります。

全農あおもりデータ（4/30累計）

品 種	王 林	サンジョナ	サンふじ	シナノゴールド	その他	合 計
単 価 (円)	3,932	4,022	4,098	4,110	3,872	3,981
前 年 比 (%)	94	92	90	95	102	96
販 売 数 量 (箱)	389,880	270,854	3,094,207	73,236	1,974,474	5,803,018
前 年 比 (%)	78	87	90	82	78	87

※10kダンボール1箱当りの数値となります